

令和2年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和2年11月20日（火）午後1時

場所：犬山市役所 4階 401会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 奥村康祐 委員 田中秀佳 委員 小倉志保  
委員 堀 美鈴 委員 渡邊智治 委員 木澤和子

事務局

【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課

井出企画広報課長

西村課長補佐

小枝統括主査

【教育部】

中村教育部長

矢野子ども・子育て監

記録者 企画広報課 西村課長補佐

傍聴者 0名

◆欠席者

アドバイザー 県立犬山高等学校 校長 祖父江泰浩  
県立犬山南高等学校 校長 森也寸司

◆次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 令和3年度予算について

・令和3年度予算について

・ガバナンス、マネジメントについて

(2) 文化、スポーツについて

4 自由討議

5 その他

6 閉会

## ◆会議要旨

## 議題(1) 令和3年度予算について

## ●令和3年度予算について

## 【主な意見】

- ・GIGAスクールを契機に、子どもたちが先生に集中する、授業に集中するということがどこの学校にも起こると良い。また、デジタル教科書が配られるなかで、これまでは先生によって生じていた授業のバラツキが統一されると良い。
- ・不登校の子たちとのつながりをどうするのかを検討していただきたい。
- ・この半年～1年の間に人々の意識が変わってきたのと同様に、先生の意識も変わっていくことが大事。

## ●ガバナンス、マネジメントについて

## 【主な意見】

- ・ガバナンス、マネジメントという視点を教育委員も一緒になって意識していけると良い。
- ・きちんとしていかないといけないけれど、現場が楽になる方法も考えていかないといけない。
- ・「監査をした」ということよりも、「監査の結果、どう対応したのか」が大事。
- ・同じことを指摘されていては良くなっていかない。最低限の底辺のところの底上げをすることが最大のポイント。
- ・ベシックなところは、現場に任せるのではなく、教育委員会でやり方を提供した方が良い。
- ・監査の結果は、監査を受けた学校だけでなく市内14小中学校で伝えないといけない。
- ・監査報告書をもとに総合教育会議だけでなく、定例教育委員会で議題としていくと良い。

## 議題(2) 文化、スポーツについて

## 【主な意見】

- ・いろいろな人が学びの時間を作って欲しい。
- ・講座等については、リピーターも新規の人も参加することが理想。広くいろいろな人に認知してもらった方が良い。
- ・教育委員からも空間の有効活用について意見があると嬉しい。
- ・コロナになってから人の動きが変わった。そうした人の動きを考えていただきたい。
- ・思いや施策を展開していく上では、自分の部、課のテリトリーを飛び越えて欲しい。

## 自由討議

## 【主な意見】

## ●修学旅行生へのお礼について

- ・市内小学生が修学旅行で京都を訪問した際に、生徒たちに4,000円分のクーポンと市長からお礼の手紙をもらったと聞いた。予算のこともあるが、犬山市でもちょっとしたことができないか。これを機に観光課とも連携して誘致につなげてはどうか。
- ・犬山へ修学旅行で来てくれた人へ、お礼の気持ちを伝える何かを考えることは重要な視点。

## ●児童虐待について

- ・関係機関と連携しつつ、社会全体でカバーするネットワークを構築しないといけない。
- ・対処療法的なこと、根本療法的なこと、両方の側面に対応しないといけない。
- ・子どもが保護されている間に、父母といかに関わっていくかが大事ではないか。

## ◆会議録

司 会 (井出企画広報課長)	<p>田中委員がまだお越しになっていませんが、定刻となりましたので、ただいまから、令和2年度第2回犬山市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>開会に合わせて、1点お願い申し上げます。</p> <p>本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、公開とさせていただきます。あわせて、インターネット映像配信サービス You Tube での中継も行っておりますことをご了承ください。また、コロナ対策のとして、1時間程度を目途に換気を行いたいと思いますのでご了承ください。</p> <p>それでは、はじめに山田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
山田市長	皆さん、こんにちは
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>総合教育会議ご出席いただきありがとうございます。ご承知のようにコロナが感染拡大してきて、愛知県が警戒レベルを引き上げることになります。教育委員会所管の分野でも、今までも十分注意はしていただいていると思いますが、局面が変わってくるいろいろな注意すべき点が出てくると思います。我々もしっかりと対応をやっていかなければいけないと思っていますが、教育委員会所管の各分野においてもしっかりと対応していただき、みんなでこの難局を乗り越えていけたらと思います。コロナは深刻な問題だとは思いますが、一方で、だからこそ前を向いて、みんなで力を合わせていくことが大事だと思います。一時は対立だとか分断、陽性になった人をとがめるといったことが、社会問題になったりしていますけれど、みんなで力を合わせて前を向いて歩いていけるよう、ご指導をいただけたらと思います。その点を申し上げて、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>今日はよろしくお願いたします。</p>
司 会	続きまして、滝教育長、お願いします。
滝教育長	皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>今週日曜日、22日は二十四節季の小雪（しよせつ）。これは「雨が雪に変わり始めて、冬の寒さを感じ頃である」ということから小雪と呼ばれています。例年と比べると随分暖かい毎日が続いております、暖冬なのかなという気もしていますが、そう思っていると寒い日がやってくるのだらうと思っています。くれぐれもお体の管理には気を付けていただきたいと思います。</p> <p>コロナに関して、国内では第3波、世界的に言うとも第2波が来ているようで、なかなか終息の目途がたたない状況です。学校現場では、これまでコロナ対策を十分に行っておりますが、それを継続するとともに、これからやってくるであろうインフルエンザについても注意を払ってもらえるように学校側にはお願いをしています。</p> <p>本年度の学校訪問ですが、11月16日（月）城東小をもって市内小中学校訪問を終了しました。今年はコロナの影響で、ずいぶん簡略化をされてきておりますが、一昨年度までの丸一日、昨年度のような丸半日という状況と比べると、今年のようなスタイルをベースにして、もう少しゆとりをもった日程で実施できると良いのではないかなと思っていますが、来年度の学校訪問のあり方については今後議論されていくのだらうと思っています。</p>

	<p>また、小中学校の修学旅行ですが、来週の11月24日（火）、25日（水）、東小学校を残すのみという状況です。全国的には修学旅行を取りやめる学校がある中、市長からも助言をいただきながら、時期をずらし目的地を変更するなどしながら、子どもたちに楽しい思い出を残してあげられたことを大変うれしく思っております。</p> <p>本日は新しいメンバーでの初めての総合教育会議です。市長と教育委員会が教育施策について、協議、調整を行って、合意した事項については、それぞれの立場から施策に活かしていくという会議です。本日の議題は、「来年度の予算について」と、「文化スポーツについて」です。これまで、教育施策については、山田市長には大きく目を開いていただいていることを実感して、感謝しているところですが、本日は委員の皆さんの思いや願いを是非市長にお伝えしていただくと同時に、逆に、市長の思いや願いを我々が聞いて教育施策に活かしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
司 会	<p>アドバイザーをお願いしております犬山高校の祖父江校長先生、犬山南高校の森校長先生におかれましては、公務によりご欠席との連絡をいただいております。</p> <p>議事に入ります前に本日の資料の確認をさせていただきます。既に配布させていただいております</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・名簿</li> </ul> <p>それから3種類の資料がございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料1 令和3年度教育関係主要事業</li> <li>・参考資料2 令和元年度 定期監査結果報告書</li> <li>・犬山の社会教育</li> </ul> <p>となります。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。これ以降は、「犬山市総合教育会議運営要綱」第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
山田市長	<p>では私の方で議事進行をさせていただきます。</p> <p>議題の1点目については2つあります。まずは令和3年度予算について、市長部局と教育委員会の意見交換、調整ということですので、皆様から令和3年度予算について、ご意見あれば伺いたしたいと思います。何か発言ありますか。</p> <p>私の方から1点、以前から申し上げていますが、令和3年度の予算に関連して、今年度予算としてGIGAスクールの関係で、学校現場に一人一台端末を配布されていきます。以前にこの場でも申し上げましたが、莫大なお金がかかっています。「入ったが、使ってはけません」ではいけないので、私は与えられたもの以上の力を発揮していただきたい。端末はあくまでも「手段」なので、私たちはいったいどういう教育一人づくりを目指して、「端末を使って授業が分かりやすくなったね」とか、「楽しくなったね」と言ってもらえるような、そういうふうになっていくと良いなと思います。令和3年度の予算にタブレットのランニングコストが入ってきますから、効果をフルに活かす現場の取組を強く求めていきたいなと思います。</p>
滝教育長	<p>デジタル教科書やコンピューターを使った授業について、まだ完全に環境は整っていませんが、現時点で南小学校がモデル校として様々な取組を進めているところです。先日犬山南小学校の学校訪問の時に、委員の皆様が授業をご覧になられて、率直にどのようなことにお感じになったかというのをお聞かせいただくと嬉しく</p>

	<p>思います。</p>
渡邊委員	<p>南小学校訪問の後に校長先生と懇談させていただいた中で、「生徒の顔が上がる授業」ということをおっしゃっていて、まさにその通りだと思います。私自身も自分の仕事場で「生徒の顔が上がる授業」を目的に、今年の春にプロジェクター等を導入しました。子どもたち自分自身が今どこをやっているのかということが分かるのですが、それ以上に先生に集中する、前に集中する。授業に集中できるということが、どこの小学校にも起こると良いなと思います。これから一人一台、デジタル教科書とかが小中学校に配置されていく中で、これは私の単純な思いですが、ある程度「犬山市」としての方向性、マニュアルではないけれど、同じ学校学年のクラスで、例えば社会の授業をやっていたときに先生によって出してしまうバラツキを、教科書が導入される時にある程度統一をしていく。そのためには準備する時間、費用とかもかかりますけれど、「生徒の顔が上がる」というテーマと、「知識として押さえていく」、どこの小学校でも授業としては同じ方向を向いて行けるような仕組みの整備ができるると良いなというのが見て感じたことです。以上です。</p>
山田市長	<p>「バラツキがないように」ということですね、当然のご指摘だと思います。</p> <p>他に何かありますか？これ以外でも、予算に関連して何かあれば、これをもっとこうした方が良いのではないかとか、見直した方が良いのではないかとか。</p> <p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員	<p>このGIGAスクール構想というものの自体が、文部科学省から出ているものは「誰一人として取り残さない」ということが基本にあって、ただ単にパソコンを一人一台渡すということではない。現状ですぐにできることができていないと、導入してもできないということも非常に多いと思います。一つは、不登校の子たちに現状あるもの、学校に来られていない子たちとのつながりをどうしていくのかをまず検討していただくこと。</p> <p>それから先ほど渡邊委員が「バラツキがある」とおっしゃいましたが、「誰一人取り残さない」ということは、多種多様の行いで変化をつけて対応をするということも非常に大事ななと思います。1つのやり方で全員ができるわけではないと思うので、その辺りも学校のあり方というものの変化を考えなければいけない。例えば、1年前に黒いマスクをしている子がいたら、学校では「あんまり」というような対応をしていたのが、今はどんなマスクをしても、マスクをしていることが大事ということからすれば、何も言われぬ、問われぬ、という形にこの半年～1年の間に意識もあり方も変わってきたと思うのと同様に、先生の意識も変わっていくことが大事だと思いました。</p> <p>もう一つがインターネットを使う状況—Webを使う時のWi-Fiの環境を、できるだけ多く。ある市では全家庭に光回線を引いたという話もあつたりしますが、これは市の方向性の問題でもあると思いますが、観光地とかいろんな面から見ても、最低限でも市役所と図書館、フロイデ、人が多く集まる集会所、そういうところだけでもWi-Fiの整備をしていただくと、生徒たちがそこに行って学習環境がすぐに整えられるということは非常に有効的なことかなと私は思います。以上です。</p>
山田市長	<p>おっしゃる通りで、不登校の問題というのは私も関心を持っているので、教育委員会に話をしています。GIGAスクールと関連してとか、リモートが良いかどうかという問題はともかく、ご承知のように不登校にもそれぞれの事情がありますから、できれば普通に通ってもらえることが良いと思うので、数字的な部分も気になるころではあります、一人一人の事案に応じた対応をしていきたいと思っています。非</p>

	<p>常に私も関心を持っているので、そのことに関しては連携してやっていかないといけないと思っています。</p> <p>Wi-Fiに関しては、フロイデはありますよね。</p>
事務局	協働プラザのところは整備したはずです。
山田市長	<p>Wi-Fiも我々としては、GIGAスクールに関連してということではなく、あくまでも防災上の観点から、市内の公共施設の中に「この施設はつけておいた方が良い」というところを見極めて、検討しているところです。その辺は、全ての避難所につければ良いということではないので、比較的市民利用のあるところで、なおかつ防災の避難所になっているところを優先的にやっていけると良いなと思っています。ありがとうございます。</p> <p>GIGAスクールで意見を出しましたけれども、予算全般なので、学校教育に限らず、皆さんから予算に関して何か意見があれば出してください。もちろん学校のことでも結構です。</p>
堀委員	<p>先程のGIGAスクールの件ですが、やはり「誰一人取り残さない」ということを考えると、先生のこれに対する理解、こんな厄介なものが来たというのではなくて、良いものだと思ってくれて、これをどうやって活かすかというのを考えていただきたいと思います。</p> <p>それから、研修とかはありますか？</p>
山田市長	研修はありますし、支援スタッフが入る予定です。要するに、専属で、分からないときにきちんとサポートができる、あるいは機械に不具合が生じたときに、サポートできる人を入れる予定でしたよね。どのくらい入れる予定でしたか？
滝教育長	<p>現在は14校に対して2名－1名で7校を回っていただいている状態です。このような人を少しずつ増やしていこうかなというところです。それを今、交渉しています。</p> <p>先ほど「誰一人として取り残さない」と申しましたが、子どもはもちろんですが、私達が思うことは「先生を取り残さない」。そのために、年度内に各学校で研修を2回はやるつもりです。教育委員会が主催をする研修ですけど、それ以外にもそれぞれの学校ごとに先生に使い方を慣れていただいて、実際に子どもたちに1台ずつタブレットが渡る、先生たちもデジタル教科書を使用できる状況になって、「さあ、どうしよう」ではなくて、4月からスタートできるような準備を進めようとしているところです。</p>
山田市長	<p>実はその辺の話は、急にコロナになったからと言ってGIGAスクールの話が湧いてきたわけではなく、去年の秋に安倍総理が明確な方向性を出しました。その時点で教育長と話をしました。その中で3つお願いをしましたが、その中の一つ、まさに「受け皿」の問題です。要するにそれはもう分かっていたことなので、コロナの影響でたまたま3年くらいかけて入れるものが一気に入ることになったということはあるかもしれないけれど、好むと好まざるとかかわらず避けられない流れ。もちろん、堀委員がおっしゃるように「こんなとんでもないものを持って来た」ということでは、心理的に拒否反応が働いてしまうので、それを自分たちがなんとか前を向いて受け入れて。その準備は本来で言うと、私は入るまでの間に十分な準備期間はあったと思うのですが、そこは努力をして。そうは言っても、教員だって子どもだって、みんな人間なので、ついていけない人はいるでしょうから、そのフォローアップは現場もしっかりやってくれると思っています。</p>
滝教育長	そのつもりでいます。

山田市長

他に何かありますか？良いですか？

特に無いようですので、予算に関しては教育委員会の所管事項も非常に範囲が広くて、いろいろテーマはあります。正直に言って、コロナの影響で市の税収に対しても大きな影響が出て、今後の国の予算的な支援が、どういう支援があって、我々がどう予算組みをしていくのかということが、まだはっきりと見えていないところがあります。少なくとも、市民税や法人税の収入が落ち込んで、シミュレートするとそれなりの予算の減収が予測されています。政策の優先性を判断するときに、少し皆さんの頭に置いていただきたいのは、文化会館の老朽化が進んで空調と舞台装置等の改修は南部公民館とセットでやるとあれば全部で10数億？とにかくすごい金額です。空調もいつ壊れてもおかしくない状況です。そういうことは、壊れる前に予算を組んで直すべきではないのか。そういう設計の予算は組んでありましたが、今年度それを見送った。それは正直言って、仮に壊れたとしても、それを億単位の金を使って一刻を争って直すことが、本当に市民の生活と比べたときに優先されるかどうかということ、正直私は今、考えています。本来は今年度設計をやって、来年度から改修が入っていましたが、それを止めている状況です。大きいものと言うとそういうものがあるので、ここで情報共有をさせていただきます。来年度どうするかは、内部でまだ調整中の段階ですので、決まっていませんけれど、一つの話題として、情報提供をさせていただきます。そういうこともあるので、もし何かあれば言ってください。教育委員の皆さんとして、「それはちゃんと予算組みしないとイケない」とか「全体を見たらそれも仕方がない」とか。もちろん、文化会館だけに焦点を当てているわけではないので、他にも膨大な事業があって、大きな事業で言えば、道の駅も27億円かかる事業ですけれども、ゴールポストを変えるつもりはありませんが、進めることを見合わせている状況です。それはなぜかと言うと、民間の資金を活用して進める事業、それでコストを抑える仕組みを考えた事業なものですから、今、民間が新規事業に消極的なこともあって、このまま無理にスケジュールに沿って進めても、犬山市にとって有益な民間とのタッグが組みづらいだろうということで、経済的な状況も見ながらタイミングを見計らっているところです。ですので、決して文化会館だけを狙い撃ちしているわけではありません。市政全体の中で事業選択をしているところです。その辺は皆さんも頭に入れていただいて、ただし、必要なところは、全体の予算が厳しいからと言ってカットするわけではなく、必要なものについては予算を増やしてでも攻めの姿勢を崩さないと思っています。できる限り教育関係の予算については、自分としても重きを置いていきたいと思っています。

続きまして、「ガバナンス、マネジメント」ということで、私からテーマ設定をさせていただきました。『令和元年度定期監査結果報告書』の教育委員会所管事項をご覧いただくと、いろいろ見えてくるものがあると思います。教育委員会の中で、教育委員の皆さんが教育委員会の所管事項に対して、どういう視点を持って臨んでいくかということの一部にいろいろな観点での委員としての務めを果たしていかないとイケないと思いますが、ガバナンスとマネジメントという視点は委員の皆さんとも思いを共有したいということがあったものですから、テーマ設定をさせていただきました。監査結果報告書に書いてあることは、中には細かいこともあるかもしれませんが、結構厳しいことが書いてあります。議事録に残る場なので誤解を招くかもしれませんが、それを覚悟して言いますが、少し監査委員さんの思い込

	<p>み的な、見解が相違する部分、こちらとして言いたい部分も中にはあります。ただ監査委員からの指摘の中には、ごもつともなものもあります。そうすると、やはり現場として「このくらいことがきちんとできていなかったの？」ということが中にはあります。現場としては言い分がいろいろあるのですが、監査委員さんにその辺の取組の真意が伝わるような、そういう意味で言うと伝わっていない。こういう見方になってしまっているということも、こちらに原因があるわけですので、その辺はこれから委員の皆さんが教育委員としていろいろなことを議論していく中では、こういう視点も共有していくと良いのではないかなと思いました。教育委員会というのは建設的な話をどんどん前向きにして、夢と希望に向かって議論していくのが一番良いとは思いますが、しかしその一方で、マネジメントだとかガバナンス（統治、管理）がずさんな状態では、その上に立派なものは成り立っていきません。皆さんが活動する中の視点の一つとして、ガバナンス、マネジメントを私も意識していきますし、皆さんも一緒になって意識していけると良いと思っています。このテーマで意見交換はなかなかしづらいかもかもしれませんが、私の思いとして伝えさせていただきましたので、皆さんからご意見があれば何かご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
堀委員	<p>監査の資料を見ていて私が分かるのは、子ども未来園のことですけれど、資金管理のことを「なるほど」と思いながら見ていて、「だけど現場はね」という。ただ、多分学校の先生もそうでしょうし、保育士もそうですけど、勤務時間以上にいてもあまり気にならない仕事、ではないでしょうか。「お互いに分かるだろう」というようなところがあって、こうやって指摘されると、「印鑑をそこに置くのがいけない」と指摘されれば「そういえばずっとそこに印鑑を並べていたな」とか。社会の本当はこうあるべきということは少しづつきちんとしていかないといけないのですけれど、現場が楽になる方法一面倒くさくない方法を考えていかないといけないのかなと思いつつ、「なるほど」と思いました。</p>
山田市長	<p>今、堀さんが言った感覚と全く同じ感覚で、現場が面倒くさくない方法がもっとできないのかと。それにはシステム化するということが一つあると思います。このことではありませんが、犬山市も遅ればせながら、登降園システムを入れます。人間が人力で事務作業としてやっていくもの、機械ももちろん間違いがあるかもしれませんが、基本的には手間とかミスが少なくなると、本来専念すべき仕事に時間も意識も集中できるので、できる限り私どもとしても現場の先生が保育に専念できる環境づくりはしたいと思っています。極力こういうところで間違いが起きないようにするという一面倒くさくない仕組みは、視点として重要だと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p>
奥村委員	<p>監査というものは、民間の会社ですとISOの監査が入ると、内部監査と外部監査の二種類がありますが、必ずそれに対して、指摘事項があった場合、是正処置というのがあって、是正をして完了となります。この場合は是正とか、いわゆる言われたままで終わるのか。教育委員会でも学校訪問をして指摘して、それで終わってしまうということが非常に多いと思いますけれど、その辺りはどのような動きになっていますか。</p>
山田市長	<p>監査からの指摘に関しては、当然、指摘があったものに対してそのままスルーしてしまうということはないので、こうやっていただいたものについては、監査委員にもこちらの対応状況をフィードバックしています。ただ、こちらはフィードバックしたつもりなのだけれど、「言っているのに少しも何もやっていない」というような、その見解のズレというものがあったりします。</p>

事務局	はい。ただし、すぐできるものと、時間がかかるものがありますので、そこはきちんとタイムスケジュールを引いて。
山田市長	必ずフィードバックはしています。ただ、指摘の内容がこちらの取組と向こうが求めていることが必ずしも一致しているとは限らないので、努力はするのですが、場合によっては「それは認識が違いますよ」というものがあるので、その通りにするかというのはまた別の部分があるかもしれませんが、スルーして言われたまま何もしないということはありません。
奥村委員	私が見るには、評価としては「監査をした」というよりも、「監査の結果を見てどう対応したか」の方が評価を見ることの大事なところだと思うので、その辺りがもう少し見えると良いと思います。
山田市長	それはあくまでも監査の指摘事項に関してのことで、どちらかという受けるのはこちらであったり、教育委員会であったりするものですから、今日はガバナンスやマネジメントというところできると、委員の皆さんは監査ではないのだけれど、監査から指摘を受けて「すみません」ではなくて、本来であれば我々の段階で、きちんとマネジメントやガバナンスができていくことが理想だと思います。「叱られて態度を改めた」ではなく「初めからきちんとまっとうな仕事をしていく」。その部分で、みんなで気を付けていけると良いということです。きっと皆さんも現場へ足を運ばれることがいっぱいあると思うので、そういうところで気になった点や気付いた点というのは、管理だったりコスト的なものであったり、人員のガバナンスであったりが重要な視点なので、「そういったところを共有して良い形で充実させていきたい」ということがこのテーマ設定の主旨です。
滝教育長	我々は監査からのご指摘は非常に重く受け止めています。ですから、言われっぱなしではなく、それに関してはできる限り対応できるように内部で精力的に努力をしています。先ほど奥村委員がおっしゃっていた学校訪問でいろいろ指摘されたことについても、我々は重く受け止めています。例えば犬山中学校の理科室の話が出てきますが、やっと手が付けられました。お金がかかることはやはりすぐにはできない。すぐにできることと少し時間がかかること、かなり時間を要することがあります。すぐにできることはすぐにやりますが、少し時間がかかることがあります。決して、指摘をされてそのまま終わるつもりはありません。いろいろ言っていたのであれば、それには誠意をもって対応していかないとはいけません。
山田市長	指摘事項の中で「あれ？」と思ったのが、指摘事項（3）実験用薬品の管理。私は監査委員をやったことがあります。監査委員をやったときに、たまたまそのときの代表監査から、学校が把握している薬品の保有量と実際の量が一致していないと前にも指摘されています。多分、人が代わっていくと、そのときはしばらく気を付けていても、「これってまた言われている」と私は思いました。管理のノウハウとして、現場に定着しきっていない可能性がある。現場は現場の言い分があると思いますが、管理としての当たり前のラインというものが上がっていない。そこは皆が気を付けて見ていかないと、ほとぼりが冷めたらまた同じことを指摘されてということの繰り返しだと良くなっていかない。そこからレベルアップができてくるはずなのですが、まず最低限の底辺の底上げをしたいというのが最大のポイントだと思います。 何か他にありますか。
小倉委員	先程おっしゃっていた薬品の管理ですけれど、私もそれが気になっていました。多分「各学校で管理をしてください」という言葉で、「分かりました」ということで、それは「現場の良いようにしてください」というある意味グレーな形で落とし

	<p>れていく。それは力量のある学校だったり、先生だったら自分のやりやすいように管理をしていける便利なシステムだと思います。だけれどそうではなくて、いろんな人が2年、3年でローテーションをしていってしまう学校の現場の先生たちのことから言うと、管理の方法は「これで行く」—何から何まで決めるというのではなく、最低限押さえるべきところ—例えばお金、切手の出し入れの方法とか、薬品の管理とか、本当にベーシックなところは「こういう方法でやってください」と言われる方がきっと現場はやりやすいと言うか、それに従えばいいので、その中でプラスこういうシステムが入った方が良いということは随時あげてもらって、やり方を良い方法、楽な方法、先生がやりやすい方向に変えていく。しかし、そのベーシックな方法というものは、教育委員会でシステムを構築していく方が確実で、先生たちも楽なのではないかと思いました。仕事をしていく中で公務員的なところ、場所はやはり5年で異動というのが多い。「どうしてこんな方法で管理されているの?」とか、やり変えた頃に異動になって、次の人が次のシステムを作るといった話をよく聞きます。管理のところはこちら側で提供する方が良いかと思いました。</p>
山田市長	<p>さっきの堀さんの話にもあったように面倒くさくない方法できちんと継承され方法が確立されれば、一番理想だと思います。この監査報告書は今まで教育委員の皆さんは共有していましたか。</p>
滝教育長	<p>これは教育委員さんには渡っていません。</p>
山田市長	<p>目に触れておくと良いかもしれない。監査は二人いて、代表監査はこちらで任命しますが、代表監査は結構厳しいです。私は厳しい方が良いと思います。本当に厳しいことが書いてあるので、そのぐらいの人で良かったと思っています。もう一人は議会選出です。議員も公職者として、そういう目線を持っています。ですので、監査委員という外部からの目として、気付いたことをこうやって書いているので、皆さんで共有すると良いと思います。</p>
滝教育長	<p>もう一つ思ったのは、今まで毎年だいたい2校へ監査委員が行かれますが、この結果が2校に下ろされていくだけの状況だったのかなと思います。ですから、この2校を通して指摘をしていただいたことを14小中学校全部にお伝えをし、事務局の目でそれが実施できているかどうか、対応できているかどうかを確認していかないと、全部の底上げにはなっていない。いろいろお聞きしていて、「その部分はこうやってやらないといけないかな」と改めて思ったところです。</p>
山田市長	<p>それはそうですね。全体に共有しないと、一部の学校だけの問題ではないので。</p>
滝教育長	<p>伝えはしますが、実際に現地へ行って確認をすることは今のところはしていないものですから、今後はそういったことも必要かなと。</p>
中村部長	<p>ご指摘のとおりだと思います。今年度、既に学校教育課の職員が、監査委員の監査の前に予備監査的に学校の現場に入りました。改善をしていっています。</p>
山田市長	<p>とにかく、全体で共有しながら、もちろん教育委員会の所管事項は子ども未来課もありますし、他の文化スポーツ課や歴史まちづくり課もありますので、関係するものは共有して、教育委員の皆さんとも情報を共有しておくと思うので、そうするようにしてください。</p> <p>他にありますか。</p>
田中委員	<p>監査報告は、我々市民でもHPで見られる—公開されている書類でしょうか。</p>
山田市長	<p>HPに公開している?していないとまずいと思うけど。</p>
事務局	<p>してあります。</p>
田中委員	<p>今まで、我々がHPからきちんと見ていなかったことを反省しないといけないなど。こういう場で、この監査報告書をもとに話し合いをすることが大事だと思います。</p>

	<p>し、総合教育会議だけではなく、教育委員会の定例会の中で議題として、これをもとにやっていくと良いと思いました。学校予算というのは、公費で賄われている部分と、市費で賄われている部分がありますが、市費の中では、給食費や教材費というものがあって、あと隠れた裏特別会計のようなものがあって、要は学校予算にもあらわれない一例えば制服とか体操服というものは親が買って終わりですので、予算に計上されていない、金額に現れていない予算もあって、あと部活の用具代も。そういうところも含めて、この薬品の管理だけではなく、かなり学校というのは予算、お金に関してルーズなところがある。一方で郵便切手の購入というのものも、公費の使い方は非常に、学校の先生たちにとってはもっと柔軟に使えば良いのにといいことで、身近な話ですと、面倒くさいから教員が自腹で買ってしまおうとか。急に半紙がいるけれど、忘れてきてお金がなくて買えない子どものために教員が買って置くとか。それも公費で買おうとすると手続きが面倒になるといった問題もある。</p> <p>「働きやすさ」と堀委員からもご指摘ありましたが、例えば保育園なんかでも簡略化して、あまり適切ではないような出勤簿管理ということも構造的な理由もあるのではないかと。事務職員が保育園にはいません。全員先生ですから、先生しかいないところで事務管理をするという難しさもあります。それとこれはルールとか制度の問題なのか、その個人が公務員としてきちんとやっていないからなのか、現場の責任なのか、それともシステムの責任なのか、というところをこういう総合教育会議の中でも確認していきたいと思えます。先ほどもありましたけれど、監査に対しても現場の言い分と言いますか、現場は現場でやっぱり働きやすいシステムはこうあるべきだし、むしろ現場からどのように改善すればいいかという改善案を出していただく必要もあるでしょうし。ですから、監査報告を土台として、我々は教育委員として、学校を対象とすれば学校を外部者として「きちんとガバナンスできていますか」ということに関しては、学校の先生とか事務局から回答を得る場があるのは非常に重要なと改めて勉強になりました。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。是非また定例教なんかでもテーマにさせていただければありがたいと思います。</p> <p>他によろしいですかね。はい、木澤委員。</p>
木澤委員	<p>はじめまして、よろしくお願ひします。</p> <p>この意見のところにありますが防犯カメラ。と言いますのは、私、学校へ長いことお邪魔しているのに、あまり防犯カメラがどこにあるかという意識がありませんでした。ところが、テレビで事件を見ると、これが必要になっており、これを全部変えるのが良いかどうかは置いておいて、「それだけ？これだけが頼り？」ということを思いますが、必要とされていることは確かな気がします。保存期間とか、あまり画像が良くないものがあつたりすると、もう少しそういう意味では抑止力 - これがあることで、何かをしようと思っても抑止できる。そういう意味では大事なものであるかもしれない。であるのだとしたら、やっぱり機能したもの - ただ形があつて、何となくあるものではなくて、何かしようと思っている人からしたら多分一番気になっている物であつたり場所だと思います。それこそ私自身がなんですけれど、学校訪問では先生や子どもの様子を楽しみに参加していたのですが、こういうところも大事なところなのかなと今回読ませてもらって感じました。あるだけではなく機能がどうなのだろうということ。それが抑止力につながるような活用の仕方になってくるとより良いのではないかなと思ひました。これからそういう視点で見ると良いかなと思ひました。</p>
山田市長	<p>おっしゃる通りで、ここの指摘事項にあることは、カメラの盲点を突かれた事件</p>

	<p>は、悪いことをしようとする人というのはカメラの位置を分かっている、カメラに映らないような形でやろうという人間なので、本当にくまなくどこからどこまでも見れるように設置するということには限界があります。ただし、せっかくあって、写っている可能性があるのにカメラの機器が古くて、それを確認できないことは一番残念な話です。実はカメラというものは、これは担当には言っている話ですが、犬山市は学校だけではなくて、市内全体にカメラというものは相当数設置されていて、それは機器というものは年々良いものが出てくるので、それがきちんと一定のスパンで更新されていくような仕組み—新しく設置するものと、あるものを更新するという仕組みがきちんと全体の整備計画としてないとまずいので、ずっとそれがあるということは場合によってはそれが撮れていない、撮れていても確認ができない、証拠になりえないとか。それでは残念なので、そういったこともこちらから指示を出していて、たまたま見に行ったものの中に、まだそれが追いついていないものがあつたのか分かりませんが、我々としては全体で意識はしています。学校がどういうふうにそれをやっているのか私は分からないけれど、防災交通課には前から言っています。</p>
事務局	<p>防犯カメラについては、市長が説明されたように、市全体で防犯カメラが必要なところをもう一度洗い出しなおす、という作業をしています。その中に学校も入っています。全体で順次更新をしていくというシステムを、学校教育課ではありませんが別のところで、コントロールしようと着手をしているところです。</p>
山田市長	<p>他に何かありますか。よろしいですかね。 丁度一時間たったところですので、換気のために休憩をします。</p>
<p>&lt; 休 憩 &gt;</p>	
山田市長	<p>次に、議題2「文化、スポーツについて」です。先ほど申し上げたように、教育委員会の所管事項は大変幅広くて、どうしても学校教育に議論が偏りがちなので、テーマとしては順番に所管事項のところを増やしながら意見交換ができると良いなということで、今回は「文化、スポーツ」。社会教育の中でも幅が広いので、「文化、スポーツ」をテーマとさせていただきました。『犬山の社会教育』をお配りしていますけれども、何か皆さんから、ご指摘やご意見あれば発言をお願いします。</p>
小倉委員	<p>いろいろな生涯教育として、子ども大学を含めて講座だったり会が開かれていると思いますが、そこを利用している人が一定の人でその人が毎年来ているのか、新しい人が入れ替わっているのか。そこは興味深いところがあって、思いとしてはいろんな人が学びの時間を作って欲しい、できる限りたくさんの方が犬山市でチャンスを得て欲しいということはあるけれど、同じ人がいつも大人の講座だったり、子どもの講座だったりに行って、サービスを一定の人だけが使っているものなのか、そうではないのか、というところを知りたいと思いました。新規で受講者が入れ替わっているのか、人数だけは出てくるのだけれど、利用者が継続の人なのか、どうなのかというのが。</p>
山田市長	<p>文化スポーツのくくりかどうかは別として、例えば市民総合大学とか子ども大学とかについては、結構リピートしている人が多い。本当に新しい人たちまで広がっているかということ、少しそこは分からないところがありますが、逆に言えばリピートしてくれる人がいるということは、内容について評価していただいているところがあると思います。できればリピートしてくれる人もいて、新規の人もいるということが理想ですが、あとは企画の中身によって興味を持つ人の中身が変わってくるので、企画の仕方というものはあると思います。ですので、どうしてもメンバーが固定的になっていく傾向があるということであれば、中身を分析しながら</p>

	<p>ら、企画のあり方を考えると、そこは重要な視点だと思います。できれば広くいろいろな人に認知してもらった方が良くと思います。そこは工夫をしていけるようお互い連携をして担当課を含めていろんな意見を言いながら、「こんな企画をやったらどうだ」とかそんなことが言えると良いですね。</p> <p>他に何かありますか。</p>
堀委員	<p>よく言われていることだと思いますが、さっき市長がおっしゃった市民文化会館です。もっと利用率が上がるようなことはできないのかなと。もったいないです。さっきおっしゃったように、もっと使われていたら、それこそ待たないで直さなくてはいけないところですけど、使われていないということもあるので、後回しにしても良いというような、良いような悪いようなことですけども。「規模が大きくてちょうどいいふうに使えないのかな」とか、いろいろ思いますけれど、それにしてももったいない。何かできないのかな、お金が稼げないのかなと。</p>
山田市長	<p>おっしゃる通りで、文化会館の補助も一個作りました。イベント時の補助を一個作って、市民の利用に対して支援をしてきましたけれど、なかなか利用が伸びないので、我々が考えているのは舞台だけ貸せないかと。要するに、会場を全部借りても、そんな使用料を払いたくない。例えば今、軽音楽とか、音楽の練習をしています。犬山で練習ができる公共施設は、楽田ふれあいセンターしかありません。平日も含めて、会場そのものが遊んでいるわけですから、別に舞台だけ切り分けて貸したとしても、もし使いたい人がいるのであれば、それはやってみたらどうかという話はしています。それは予定していますよね。</p>
中村部長	<p>はい。12月には募集をかけて、今年度実験的にやりたいと考えています。1時間1,400円で舞台が借りられます。</p>
堀委員	<p>さっき渡邊委員とその話をされていて、全く同じでした。</p>
渡邊委員	<p>実際、横須賀市で、ピアニスト体験ということで、1時間単位で1日10件くらいかな、1時間いくらかというふうに場所貸しをやっていて、個人で使うというものはあって、それをさっき話していて。文化会館とか南部公民館というのは多分、学校とか文化スポーツの「文化」というところでいくと、学校にあるピアノとか、いろんなピアノが浮いていたり、軽音楽を含めて吹奏楽部の練習する場所ー思い切り吹ける場所というものが逆にスタジオだと密になるということで、ない。文化会館とかそういう場所が使えたら良いかと話していましたが、先ほど市の税収の話がありました。活かせるものは活かして、高額ではないにしても、お金をいただいて使っていただく。それは当然施設を維持することにもなるし、子ども一個人的には幼稚園とかの子、が弾けばいいかなと思っていますが、なかなかできない経験なので、良い思い出にもなるのかなと。もっと地域とかにアピールすれば良いと思います。みんなが市の施設に行けるような、グループでなくても個人でも使っていけるようになれば良いという話をしていました。</p>
山田市長	<p>他所の自治体で、そのようなやり方をしているところがあるので、そういうところも参考に考えてきました。やはり文化会館のあり方というのは、コロナになってから余計に考えて、今言ったような話も出ました。おっしゃる通りだと思います。そういう活用も考えていきたいです。たまたま文化会館の舞台ー文化会館の一部の話ですけど、市が保有している財産の中では、そのように使われていない空間、有効活用できていない空間がいっぱいあります。この間、新聞にも大きく出ましたが、例えば「駅の通路の広告の募集をしてみたらどうか」と。壁だろうが、天井だろうが、地面だろうが、空間を活用する可能性はあらゆるところであって、やはり我々は1円でも稼ぐ、1円でも無駄をなくす。そういうところに努力が問われ</p>

	<p>てきます。監査からは「あなたたちは1円でも無駄に使う」、「1円も稼がない」という固定概念が根付いてしまっている。そうではなく減茶苦茶やっています。私が市長になってからは特に言ってやっているので、見えていない部分に我々が伝えきれていない部分があるのかもしれないかもしれませんが、空間利用ということでもかなりいろいろなアイデアが出てきているものですから、そういうことは教育委員会の所管だけではなくて、オール犬山で努力をしていきたいと思っています。ぜひ皆さんからも、この場所をこうやって使ったらもっと有効活用できるのではないかといいものがあると嬉しいです。</p> <p>文化スポーツに関して何か他にありますか。</p>
奥村委員	<p>コロナになってから、人の動きがすごく変わったと思います。今まであった催事がなくなったり、見直しをしている。現状の人の動きというものはどうなっているのか、ということ市としてどう捉えられているのか。それによって来年度からどのようにやっていくのか一催事のいる、いらぬの取捨選択になっていくと思います。コロナ自体もどうなっていくのか分からないので、何とも言えず本当に難しいところだとは思いますが、今まで人があまり来なかったところに人が来るようになったとか、そういう動きによって場所とか使う人の時間帯とか。もともと我々のような年代の働く人間が、最近では会社が休みになったり、休み時間が変わったり短くなったりして、いる時間が長くなったりだとか。そうするとその時間をどうするかとか、生き方を変えるので、少し今までの動きとは変わるということで、こういうところに行こうと思っていたけれど使い方を知らなかったとか。そういうこともあると思うので、市としても把握していただけると。私が日曜日に勉強をしようとして図書館が閉まっていた、ではフロイデー協働プラザがあるといっても日曜日は開いていない。これだけのスペースが日曜日に開いていないともったいないなあとか。そういったところを人の動き等を考えていただけると良いかなと思いました。</p>
山田市長	<p>それはおっしゃる通りだと思いますけれど、人の動きというものがコロナの影響を受けているようであれば、例えば市の何かの事業だとすれば、それはそこにみんなが集まってやらないといけないことなのか、リモートで代替ができるものか。基本的にはオンラインは便利だし、それはそれで使いこなしていくことは大事だとは思いますが、事業としてはきちんと人が集まってやることは重要だと思います。そうすると、コロナの状況によってはどうしても事業のあり方を見直さなければいけないものは出てくると思うので、そこは単純に考えると、人の動きとして分析はしないといけないと思いますが、コロナの影響によって左右されるということは当然あると思います。今後それをどうするのかということは、例えば文化スポーツの関わりで言うと、来年のランニングフェスティバルは中止にしています。それは、やろうと思うと警備員の手配の関係もあります。要するに、いつまでに答えを出さないとキャンセル料がかかるとか、リミットがあるので。設定だけして状況によってキャンセルすればいいということでは済まないで、非常に難しいところです。だから文化的なものでも、来年度の市民総合大学とかをどうするんだろうとか。今年度は確か市民総合大学はやっていない。最後の小和田先生だけはオンラインでやる予定をしていますが、難しいです。オンラインだから良いかということ、やっぱり私は会場で聞きたい。かといって、何もやらないよりはオンラインでやった方が良いということがあるので、その見極めは難しい。分析は必要だと思います。</p> <p>他に何かありますか。</p>

	<p>私から一点。これはあくまでも教育委員会と市長部局との意見交換の場ですから、文化、スポーツに関する教育委員会に対しての話です。これは、教育委員会だけではなく他課にも言っていることですが、縦割りで捉えてしまうと、文化スポーツは文化スポーツ課の「課」のテリトリーで考えてしまう。どれだけ「連携しろ」「縦割りやめろ」と言っても、仕事をやっていく上で絶対にそれ以上の思考回路に至らない。だけど、人間の頭の中の意識は、別にその課の垣根を超えて、意識の上での連携をしていくことが大事だと思います。そうすると対外的に文化スポーツを語ったりするときに、文化スポーツだけのテリトリーの話ではなくて、もっと発想は柔軟に広げた方が良いので「いろいろな異分野のものを掛け合わせて、そこから新しい価値のものを作っていきましょう」ということをいろいろなところで言っているのですが、観光と文化を掛け合わせるとか、観光とスポーツを掛け合わせるとか。それはそういう動きを全くしていないわけではないです。それは教育委員会も考えるべきことだし、我々の市長部局も考えるべきことだし。あるいは文化と健康を掛け合わせる、スポーツと健康を掛け合わせる。スポーツと健康はつながっていると思いますが、何か対外的に発信したりするときには、自分の課のテリトリーでものを考えてしまう。それこそ人を集めるときに「同じ人ばかり集まっている」のは、自分たちが所管のテリトリーしか見ていないから、ということが結構あります。「子ども会に声をかけてみよう」とか、「老人クラブに声を掛けたらどう」という発想が意外と出ない。なんとなく身の回りの人たちだけに発信してしまおうというところがあるので、それは文化スポーツ課だけではない。観光課でも健康推進課でも、ひょっとすると他の部局でもそうですが、仕事はそれぞれテリトリーで所管事項があるかもしれませんが、思いとか施策を展開していく意識の上ではその垣根を飛び越えて欲しいし、少なくとも情報の把握だけはしておいて欲しい。これは委員の皆さんに、というよりも僕と教育長の話だと思いますけれど。職員もそれぞれの部署では頑張ってくれていると思いますが、そういうことをもっともっとやっていくと発想が生まれてくると思います。そういうことが表れてくるのが一般質問の答弁書とかを見ると分かります。「あの課でこういうことをやっているからこの質問にはまってくるのではないか」って、答えて自分のテリトリーのことだけ答えると「この程度のことしかやっていないの」と思われてしまう。本当はいろんなことにつながって頑張っているのに、もっとそういうところを見えるように、連携がきちんとできていくと良いなと思っています。</p>
滝教育長	<p>今の話は市長だから見える部分があると思います。例えば、課長、部長となりますと、自分の課のこと、自分の部のことが最優先です。それをやるのが精いっぱい、市長の立場だといろんな課、いろんな部が同列で見えてくるものですから、課長、部長も自分から一歩下がって、もう少し客観的に自分の部や課のことが見られて、どことこの課と、どことこの課が連携したらこんなことができるのか、この部とこの部が連携したらこんなことができるのか、広い大きな心を持って考えていただくと、市長と同じ立場になって物事が考えられるかなと思います。なかなか難しいことだと思います。</p>
山田市長	<p>難しい。部課長は目の前のことを処理することにいっぱいやっていると思います。当然それは私からも一まさに私や教育長、副市長、その辺の仕事だとは思いますが、個別のいろんな部分では連携をしていかないといけないと思います。文化スポーツもやっぱり観光や健康といったこととはしっかり連携をして欲しい。</p>

	<p>昨日も、たまたま私が「数字を出して」と言っておいたことですが、「ロコモティブシンドロームという運動器系の疾患のパーセンテージってどれくらいなの」という。当たり前ですけど、75歳以上になると、運動器系の疾患が20数パーセントで1番です。それだけ医療費もかかっているということですけど、運動器系の疾患は75歳になってから予防しても75歳までの間に一他の生活習慣病もそうかもしれないかもしれませんが、それまでの間、40代とか50代、60代までの間に大事なことです。ではその世代は全く体を動かしていないかということ、意外とそうでもなくて、さっきの小倉さんの話ではないですけど、それぞれのセクションでどうしても固定化してしまっていると、見えていなくて、つながっていくと裾野が広がるのではないかということが、実はあつたりするのではないかという話です。例えば、そういうこと一つとっても、文化スポーツと連携していくと良いことがあるので、それは我々の中で見ていかないといけないなというものはあります。部課長にそれを全て求めても、きっと限界があると思うので。私の意見として述べさせていただきました。</p> <p>では文化スポーツについてはよろしいですか。 議題としては、これで終わらせていただきます。</p> <p>続いて、4の自由討議です。皆様から何か問題提起等あれば、討議していきたいと思いますが、何かあれば。教育委員会の所管事項であればどんなことでも構いません。</p>
奥村委員	<p>問題とかではありません。先日、城東小学校の学校訪問に伺った際に、修学旅行の京都市での対応を伺った際に、京都市長からわざわざお礼のお手紙をいただいたり、京都市のプレミアムクーポンを全員に一人4,000円分ぐらいいただいて、手土産を持って帰れたという。市の規模が違うとかいろいろあるとは思いますが、例えば、犬山市も、行先が学校単位で非常に変わってきているので、そういったことも含めて、犬山市に逆に修学旅行に来ていただけるような一市長が少しご挨拶をするだけで「うわっ、市長が来てくれた」ということもあるので、ほんのちょっとしたことができたり、誘致をするにも、今まで固定だったところが変わりつつあるという部分では大きなチャンスだと思います。先ほどのいろいろな部局、観光課とも連携をしながら進めていけると非常に良いかなと思いました。</p>
山田市長	<p>それは重要な話だと思います。さすがに4,000円分のクーポンを渡すということは無理だと思いますけれど、お礼の手紙は大事だと思います。</p> <p>それは子どもたち一人ずつ全員にあったということですか？学校に対してということですか。</p>
奥村委員	<p>校長先生からそういう話をいただいたので、おそらく学校に対してということだと思います。</p>
滝教育長	<p>舞妓さんも通常だと呼べないけれど、舞妓さんが対応をしてくれたり。</p>
山田市長	<p>それは我々でも不可能ではない。舞妓さんはいないから、わん丸くんでも良いわけ、極端なことを言ったら。だから情報があると良いよね。</p>
滝教育長	<p>京都は、宿泊施設がたくさんあるけれど、コロナ禍で修学旅行を取りやめる学校がいっぱいある中で、犬山の小学校は約束通り来てくれたということで歓迎をしてくれたという状況らしいです。私も犬山に修学旅行の学生たちが宿泊できるような施設があれば、「どんどん来て」と言いますが、結局そういう施設がないものですから、寄ってどこかへ行ってしまうという状況なものですから、個人的にはこの辺りにそういう施設ができると良いなと思いますが、そう簡単なことでもないの</p>

	で難しいところではあります。ただ、修学旅行の途中に、小学生、中学生、高校生ぐらいまでは寄って犬山の城下町を散策する様子はときどき見かけます。
山田市長	<p>どちらにしても、コロナのことがあるからそうしているのか、常日頃からそうしているのかは分からないけれど、一回状況を調べた上で、外から犬山へ修学旅行に来たときに、何か少し一紙が良いのか何が良いのかは別にして、気持ちが伝わるような何かができないかということが重要な視点だと思うので、まずは状況を調べさせてください。</p> <p>他に何かありますか。</p>
木澤委員	<p>今月は児童虐待防止月間です。25年くらい前からそこに関わっていますが、あまり変わっていない、もっと言うと悲惨になっていると感じます。もちろん報道でいろいろされるようになってきたから余計にかもしれませんが、施設に行っている、児童相談所に行っている、現場では何か手立てをされているのでしょうか、なかなか見えてこない。その中で犬山は、不登校も含めてですが、虐待とか弱者一弱い者の部分にはどのような取組をこれからしていくのか。特にコロナでお母さんたちがとてもイライラしていると、子どもだけでなく親の対応一親とどのように関わっていったら良いかということが、もっともっと広まっていったら良いなと。お母さんが心豊かになる、親がそうであれば子育てをする人が大きな懐であれば子どもはの中で、もっと言うと夫婦が仲良くいれば子どもはよっぽどまでは、ということは家庭支援に入ってもすごく感じるの、その辺の様子が犬山は今どうなのか、私は今まで見えていなかったのを知りたい。また、これだけ経ってもあまり変わっていないのは何が原因なのか市長が分かっていたら教えていただきたいです。</p>
山田市長	「変わっていない」というのはその対応が変わっていないということなのか、世の中の状況が
木澤委員	状況が悪くなっている気がしています。
山田市長	<p>世の中の状況が悪くなってきているということですね。</p> <p>世の中の状況が悪くなって、虐待の実際の数字がどのように推移しているかということは、今、数字的なことは分かりませんが、肌感覚的でいくと、情報化がどんどん進んでいるので、虐待とかそういうこと含めて、情報化の中で人の心というのが、段々と直接的な人と人の触れ合いというよりも、情報化の便利さの中で、全体が少しドライになってきているのかなということは、なんとなく感じるころではあります。世の中は便利で豊かなのでしょけれども、でも何かに常にイライラしているもの。イライラがいじめや虐待という形だったり一例えばネットで、みんな集中して叩いたりすることは、見えないところでやっていますよね。そういう傾向が、家庭の中でも出てきてしまっているのではないかなという感覚的なものはあります。私は評論家でもないの、何となくそう感じるだけです。では実際どう対応するかということは、まずシグナルは子どもや親の状態から見えてくる。そのシグナルをどのようにキャッチするかということだと思います。キャッチするのは行政だけではなくて、いろんな立場や役割の人がたくさんいるので、我々のセクションは我々のセクションでそこにはアンテナを敏感に立てて、だけれどいろんなセクションで情報を収集して、連携してそのシグナルをどのようにキャッチするかということではないかと思えます。それがひょっとしたらという時には、はっきり言ってこれはいつも法的な部分から問題になりますが、本当に虐待なのかどうかということは、その中に踏み込んでいくという意味ではプライバシーの部分も関連してくるので、どのようにそこを思い切っていくかということだと思いますけれど、基本</p>

	<p>的には、適切かどうかは分かりませんが、見逃し三振よりも空振り三振。誰かが死んでしまったから「気付けたではないか」ということが結果論としてよく言われますけれど、必ず命は守る。結果的に空振りだったかもしれないけど、「必ず命を守る」という意識を持って思い切って動けるかどうかだと思います。体制的な問題で言うと、これも市が直接どのように関わっているのか分からないですけど、やはり児童相談所の体制というものの自体が一いわゆる人的な体制ですけど、今、虐待と思われるような事案に対してどれだけ人的にカバーできているかは、よく分析をしないといけないと思います。答えになっていないかもしれないけれど、関係機関と連携しつつ、社会全体でカバーしていく、人的体制を含めたネットワークというものを構築しないと、犬山市ですべてをカバーできないと思うので、そういうことだと思います。</p>
滝教育長	<p>11月が児童虐待防止月間ということで、意識をされる方は虐待を起ささないと思います。虐待を起さず家庭というのはこの11月が児童虐待防止月間ということが多分ご存じないと思います。この11月に入ってから、学校現場を舞台にして、2件ほど子どもが児童相談所に保護される案件があったと私は記憶しております。一人は家に帰るのが嫌だと。「どうして？」といろいろと問い詰めてみると、親からのことがあったと。児童相談所も一時的に保護はしますが、基本的にはそれが継続をされないという感触があれば、また家庭に戻してしまいます。中には繰り返して児童相談所から注射を打ってもらうような感じでしばらく止むことは止みます。しかし、繰り返されるところは繰り返される家庭があるのかなあという感じがしなくもない。ですので、意識の二極化と言いますかーやらない意識の高いところと、そうでないところの開きが大きくて、そうでないところの家庭では頻繁に繰り返されることが多いのではないかと思います。</p>
山田市長	<p>あとは対処療法的なことと、根本療法的なことは、両方の側面でやっていかないといけないと思うので、対処療法的なことというのは、さっきから私たちが話していることだと思います。ただ、そもそも子どもを虐待するというのは、育児放棄だとか、手を出してしまうとか、殺してしまうとか、そういうことは普通の感覚でいくと、あり得ないですけど、何と言うのか、感情的にやってしまうというのは、単なるイライラでそうなっているのか、いったいどういう育ちのプロセスを経るとそういうことをするのか、真剣にその根本療法のところを考えないと、情報化は便利ですけど、その負の部分はそのところに現れてくるのではないかと懸念はあります。そこで「一体何を大事にした人づくりをしていくのか」ということを問われるわけで、犬山市は「感性を豊かにしよう」をテーマにしているのは、実は虐待をするような親は作らない。感性が豊かな人は、人を殺すまで虐待はしないと私は信じているので、感性を豊かにすることはいろいろな効果があると思いますが、人間力ということからすると、感性が豊かな人は虐待しない。たまに、イライラして「馬鹿野郎」というようなことはあるかもしれないけれど、殺すという、命を奪うというところまでの極端なところまではいかない。根本療法的にそういう人を作らないと駄目だと思います。それがすぐ数字的に見えるのかということ、そういうものでもありませんが。奥の深いテーマだと思います。</p>
木澤委員	<p>それに関して、犬山ではもうされているかもしれませんが、例えば子どもが一時保護だったり送還されると、私なんか家庭支援に入ると、そこでもう家庭支援が終わります。「子どもはもう施設に入ったからもういいです」ということで。この間にお父さんやお母さんのフォローをどこかでしていかないと、結局家族はまた保護するわけなので、「その時の準備をどこがするのだろう」と感じることも多くあ</p>

	<p>って。もちろん児童相談所との関わりで支援に入っていますから、でもその人たちはたくさんの事例を持っているので一軒一軒は行けないので、そこをサポートする一悪く言うと監視なのかもしれないけれど、家庭を見て共有するという立ち位置でお邪魔するけれど、子どもが施設に入ったり一時保護になった段階で終わってしまう。そこからお父さんとお母さんが関わっていくことで、「ともに」という形になっていかないのかなとすごく感じたので、犬山はできているのかもしれませんが、そのことは大事ではないかなとすごく感じています。</p>
山田市長	<p>それは重要なお指摘だと思います。それは犬山市が対応していることなのか、何か他のセクションが対応しているのか、それすらも分かっていないのですが、どうなのでしょう。</p>
矢野子ども子育て監	<p>お子様が児童相談所等に一時保護をされた場合ですけれど、父母がお子様に戻ってくる前のところまでは児童相談所も関われますし、それから市内の人でしたら父母に関してはこちら虐待対応ですので職員が家庭の方へ面談や電話等を入れさせていただいて、「お子様が戻ってきて受け入れられる体制が整う」ことを支援することを行っていますので、そこを強化していきたいと思っています。</p>
山田市長	<p>市がやっている？</p>
矢野子ども子育て監	<p>はい。こちらもやっています。それから、児童相談所でもカウンセリング教室がありますので、父母を呼んで研修・勉強の時間を設けて定期的に行いながら、お子様が帰れる家庭の状況が作れたら、お子様を返すという父母の教育もやっています。</p>
山田市長	<p>他によろしいですか。それでは、自由討議はここまでとさせていただきます。5のその他について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>次回の会議開催についてご連絡します。          今回は、2月の開催を予定しております。          この後、開催日時について、教育委員の皆様にご相談して決またいと考えておりますので、会議終了後もそのまま席にお残りください。</p>
山田市長	<p>それでは、これもちまして、令和2年度第2回犬山市総合教育会議を閉会とさせていただきます。今回から渡邊委員と木澤委員に加わっていただきまして、今日の総合教育会議が充実したものとなりました。今後とも、皆さん一緒になって盛り上げていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。          皆様、おつかれさまでした</p>
<p>&lt; 閉 会 &gt;</p>	